

科目番号		50006	分類			履修者	高度実践看護コース (共通科目)		学年
科目名	ラボラトリー・メソッド特論 (Advanced Course of Laboratory Method)								1
									配当セメスター
									前期
担当者	○小宇田 智子			区分	選択	単位	2	時間数	30
授業の概要および目標						学位授与の方針との関連			
【概 要・目 標】 ヒトの健康像および病態を理解する上で必要な医学・生物学の知識を得るための知識および手法を教授する。臨床現場で使われている手法や最新の科学研究で使われている手法を用い、個体、組織、遺伝子および分子レベルでの生命現象について理解することを目標とする。							1. クリティカル領域における患者の状況を総合的に判断する能力		
							2. クリティカル領域における患者に必要な治療を実践できる能力		
							3. 患者に安心・安全な医療をタイムリーかつ効果的に提供するために医師等との協働ができ、ネットワークを推進できる能力		
							4. 専門職としての倫理的意思決定能力		
							5. 高度看護実践者として、教育的・経営的な視点をもつトータルマネジメント能力		
						○	6. 臨床実践に潜む課題を形式化し、創出する研究開発能力		
							7. クリティカル領域における患者の危機的状況を支援する能力		
授 業 計 画									
回	内 容								担当教員
第1・2回	解剖学：ラット解剖・細胞培養								小宇田
第3・4回	病理学：正常および病理組織の作成・観察								
第5・6回	遺伝学：染色体の観察								
第7～9回	分子生物学：リアルタイムPCR 法による遺伝子発現の定量								
第10・11回	微生物学：グラム染色								
第12・13回	臨床化学：ヘモグロビン濃度およびトリグリセライド濃度の測定								
第14・15回	臨床化学：血液細胞とその見方								
事前・事後学習	事前学習:関連する授業内容を復習し、必要な知識・技術を確認し臨むこと。 事後学習:自己の課題を踏まえ、授業で得た知識・技術の定着に向け復習すること。 単位と時間数に応じた学習時間（学生便覧参照）を参考に組み込むこと。								
評価の方法	出席・参加状況によって評価する。また適宜レポートの提出を求めることがある。 フィードバックは適宜行う。 ヒト・動物実験に関する研修を受講すること								
参考図書・資料等	適宜、紹介する。								
備 考	オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。								